



郷土史

ていね

第 110 号

平成 29 年 2 月 8 日

手稲郷土史研究会会報

2017 年 1 月 11 日定例会

新年のごあいさつ

手稲郷土史研究会

会 長 茂内 義雄

平成 29 年、明けましておめでとうございます。

今日あたりも、この寒い中ゆっくりと家でテレビでもと思う時間でしょうがこの様に集まって頂き大切な平成の幕開けとなりました。

今朝の新聞によると、なにやら「平成」という言葉はいつまで使えるのかなと思いつながらテレビを見ますと、道内各地、猛吹雪だといひます。札幌は晴れています。キャスター曰く、これは強く冷たい西風を手稲山がブロックしているためとのこと、あらためて手稲山はいい山だな～と思ひました。

つづいてニュースは、来月手稲山で「冬季アジア大会」が開催されると伝えられていました。先日手稲区の新年交礼会でも話題になっていました。またまた身近な手稲山はアジアで注目されると思ひながら我々手稲郷土史研究会も、残り少ない平成 28 年度ですが、しっかりと整理をして新年度につなげていかなければと思つたところでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今日は、この後、札幌と手稲の埋蔵文化財について考古学の専門家で札幌市埋蔵文化財センター調査員の藤井先生からご講演を頂くことになっております。どうぞよろしくお願ひいたします。



平成 29 年 1 月 11 日(水) 手稲郷土史研究会定例会講演要旨

札幌市内の埋蔵文化財・手稲区の埋蔵文化財

札幌市埋蔵文化財センター

文化財調査員 藤井 誠二様

埋蔵文化財とは

大昔の人々が生活していた住居やお墓の跡などを遺構、土器や石器などの道具類を遺物といい、これらを総称して遺跡と呼びます。「埋蔵文化財」とは、土の中に埋まっている文化財という意味で、一般的に使われている「遺跡」とほぼ同義で使用しています。

埋蔵文化財は、先人たちの歩みが記録されたタイムカプセルであり、国民共有の文化遺産として保護し、後世に引き継いでいくことが大切です。現在、札幌では 500 カ所以上におよぶ遺跡が確認されており、皆さ



んのとても身近なところに遺跡が存在しているといえます。

札幌の地形と地質の特徴

札幌の地形は、主に①南西部の山地、②南部の月寒台地や東部の野幌丘陵、③豊平川・発寒川・琴似川によって形成された各扇状地、④海岸砂丘(紅葉山砂丘・石狩砂丘)、⑤沖積平野(石狩平野)などに区分できます。南東部の台地・丘陵では、約4万年前に噴火した支笏火山の火砕流が固まった溶結凝灰岩(札幌軟石)も見られます。

札幌市埋蔵文化財センターの仕事

札幌市埋蔵文化財センターでは、①土地の開発などに伴う埋蔵文化財保護のための相談・協議、②遺跡の記録保存のための発掘調査、③発掘された埋蔵文化財の保管・管理、④遺跡から発掘された埋蔵文化財の公開・活用といった、埋蔵文化財を保護・保存するための仕事を行っています。

北海道の時代区分

- ① 旧石器文化(約2万年前頃～約1万4千年前頃)：札幌では1万数千年前の石器が見つかっています。
- ② 縄文文化(約1万4千年前頃～約2千3百年前頃)：札幌市内では縄文草創期の遺跡は未発見で、最も古いのは早期の遺跡(約8千年前頃)です。
- ③ 続縄文(ぞくじょうもん)文化(約2千3百年前頃～約千3百年間頃)：本州の弥生・古墳時代に相当します。弥生文化のない北海道では、縄文文化のような生活スタイルが続いていたことから「続縄文」と呼んでいます。
- ④ 擦文(さつもん)文化(約千3百年前頃～約8百年前頃)：本州文化(大和朝廷)の影響を強く受けた「擦文文化」が全道に広がります。この頃から、住居にカマドが作られるようになります。「擦文」の名の由来は、土器の表面に木のへらで擦ったような跡がつく特徴を持つことによります。
- ⑤ アイヌ文化期(約8百年前頃～)：土器に代わり、鉄器や漆器、木製品が使われるようになります。また、竪穴式住居から平地式住居へ変わります。

札幌市内の遺跡

現在、札幌市内には、538カ所の遺跡があります(図1)。その第一号が、昭和29年に北海道大学の長瀬先生らによって発掘調査が行われた手稲遺跡(N1遺跡)です。遺跡は、一般的に条件の良い土地にあります(川に近い、日当たりが良い、周囲に比べて小高く水はけが良いなど)。札幌南東部の台地・丘陵や中心市街地より西側の扇状地は地盤が良く、多くの遺跡が見つかっています(西区では102カ所、手稲区では21カ所)。遺跡分布のおおまかな傾向としては、台地・丘陵など標高の高い所は縄



図1 遺跡分布図

文の遺跡が多く、標高が低くなるにつれて続縄文以降の比較的新しい時期の遺跡が多くなります。

手稲区の遺跡

手稲区では、21カ所の遺跡が見つっていますが、そのうち発掘調査が行われた7カ所の遺跡について、写真とともに紹介します。

(1) N1 遺跡 (手稲遺跡)

N1 遺跡は、手稲区前田 11 条 10 丁目にあります。昭和 29 年、当時の北海道大学の長瀬利夫先生らによって発掘調査が行われました。縄文中期～後期の遺跡です。特に、縄文後期の土器や石器がたくさん見つかかり、磨り消し縄文などの特徴を持った一群は、縄文後期中葉の標識土器として「手稲式土器」(写真 1)と命名されました。



て「手稲式土器」(写真 1)と命名されました。

(2) N293 遺跡

N293 遺跡は、手稲区前田 9 条 10 丁目にあります。昭和 48 年、宅地造成に伴って発掘調査が行われました。縄文中期後半～後期初頭の遺跡で、竪穴住居状遺構 3 軒、土坑 49 基と土器、石器などが見つかかりました。

(3) N309 遺跡

N309 遺跡は、手稲区前田 10 条 10 丁目にあります。昭和 49 年と 51 年に、宅地造成に伴って発掘調査が行われました。N309 遺跡は、N293 遺跡の北東側に隣接する遺跡ですが、この遺跡で見つかったものは、N293 遺跡よりもやや古い、縄文中期中葉のものでした。ここでは、竪穴住居状遺構 6 軒、土坑 52 基とともにたくさんの土器や石器が見つかりました。

(4) N295 遺跡

N295 遺跡は、手稲区前田 7・8 条 11 丁目にあります。昭和 59 年と 60 年に、団地造成に伴って発掘調査が行われました。N295 遺跡では、縄文中期、後期、続縄文前半の遺構・遺物が見つかりました。遺跡の主体は、続縄文前半期で、竪穴住居跡 4 軒、土坑墓 5 基、土坑 29 基などとともにたくさんの土器や石器が見つかりました。土坑墓では、土器や石斧、石鏃などの副葬品を伴うものが見つかりました(写真 2)。この遺跡では、発掘期間中に、近隣の学校や町内のこども会、一般参加者を募って、体験発掘も行いました。



写真 2 N295 遺跡土坑墓(続縄文)

(5) N316 遺跡

N316 遺跡は、手稲区富丘 3～5 条 6 丁目にあります。平成 4 年に、市営住宅建設に伴って発掘調査が行われました。N316 遺跡では、縄文早期、中期、後期、晩期、続縄文、擦文の土器・石器などが見つかりました。遺跡の主体となるのは、縄文晩期～続縄文の時期で、この時期の土坑が 26 基見つかりました。

(6) N156 遺跡

N156 遺跡は、手稲区前田 12 条 10 丁目にあります。平成 10 年に、宅地造成に伴って

発掘調査が行われました。この遺跡も重複遺跡で、縄文中期、後期、続縄文、擦文、アイヌ文化期の遺構縄文期の竪穴住居跡 5 軒（写真 3）、住居跡 3 軒のほか、土坑 11 基、屋外炉跡 21 カ所などとともに、たくさんの遺物が見つかりました。N156 遺跡は、N 1 遺跡の北東側に隣接しており、いわゆる「紅葉山砂丘」上に営まれた遺跡のひとつです。



写真 3 N156 遺跡竪穴住居跡（縄文）

(7) N533 遺跡

N533 遺跡は、手稲区富丘 1 条 4 丁目にあります。平成 20 年に、宅地造成に伴って発掘調査が行われました（写真 4）。遺跡は、手稲山麓に広がるなだらかな丘陵部に位置し、三樽別川と中の川に挟まれた丘陵の突端部に立地しています。この遺跡では、縄文早期、中期、後期、続縄文、擦文の土器・石器などが見つかりました。遺跡の主体をなすのは縄文後期前半の遺構・遺物で、土坑 87 基、屋外炉跡 3 カ所とともに、たくさんの土器・石器などが見つかりました。この遺跡では、発掘調査中の遺跡を一般に公開する



写真 4 N533 遺跡発掘風景

「遺跡見学会」を行い、近隣住民の方々などたくさんの考古ファンが集まりました。

知っておきたい札幌の遺跡

手稲区以外でも、ぜひ知っておきたい遺跡がいくつかあります。今回は、なかでも西区にある N30 遺跡を紹介します。

N30 遺跡は、西区二十四軒 4 条 1 丁目にあります。平成 8・9 年に、ポリテクセンター建設に先立って発掘調査が行われました。この遺跡では、縄文後期～晩期の遺構・遺物が見つかりました。特に、縄文晩期の地層からは、竪穴住居跡や土坑墓、多くの屋外炉跡などとともに、大量の土器・石器などが見つかりました（写真 5・6）。

N30 遺跡の調査で見つかったものは、この時期の生活の様子が極めて良好に知り得る重要な資料であるとして、平成 16 年に札幌市指定有形



写真 5
N30 遺跡出土土器（縄文晩期）

文化財に指定されました。指定された資料は、たくさんの土器や石器のほか、土偶や石製装飾品、土坑墓に副葬されたサメの歯なども含まれています。

まとめ

お話ししきれなかったところは、またの機会にお話しできればと思います。

最後になりましたが、「まち」や地域の歴史に興味を持ち、歴史を正しく理解することで初めて、その土地に愛着が生まれ、そこに住む人々を慈しむ心や絆が生まれます。皆さんもぜひ、太古の昔に思いを馳せてみてください。